

	<p data-bbox="459 271 587 304">エッセイ</p> <p data-bbox="611 333 911 383">すべて転んで</p> <p data-bbox="834 414 1110 448">SCE・Net 弓削 耕</p>	<p data-bbox="1166 271 1233 304">E-61</p> <p data-bbox="1166 365 1259 398">発行日</p> <p data-bbox="1166 414 1307 448">2014.3.10</p>
---	---	---

オリンピックでもなければ覚えることもなかったソチの地での16日間の冬のお祭りは終わり、マスコミの狂騒も静まりました。

オリンピックとなると、どの国も愛国心が湧いてくるのでしょうか、メダル、金メダルを取る取らないで一喜一憂します。スポーツを中心とした愛国心であれば争いも暴力沙汰になることは少ないので多少は強い愛国心も許されるでしょう。

もともとオリンピックはヨーロッパのお祭りであり、特に冬のオリンピックは寒さ、雪と氷に恵まれたヨーロッパ諸国の独壇場でしょう。少しの雪が降っただけで滑った転んだの大騒ぎをする極東の国では沢山のメダルを獲得するのは無理な話でしょう。

その中で日本はメダル獲得の面では、これまでの2位の8個獲得とはいえ、自慢できるようなレベルではないでしょう。しかし日本選手の活躍は少なくとも日本人には多くの感動を与えました。金メダルの羽生選手と銀メダルの葛西選手、メダルは取れなかったが失敗にめげず最後は頑張った浅田選手が楽しい物語を与えてくれました。凶悪な事件、悲惨な事故が多い報道の中では間違いなく明るいニュースでした。事柄を暗い面、悪い面から取り上げたい報道も、オリンピックでは明るい面から捉えようとしていることが分かりますが、マスコミが描いているようにスポーツは進まないのかかなりの戸惑いも見られるようでした。

羽生選手はショートプログラムではほぼ完璧な演技で、フリーでは本人も悔やむように多少の失敗はありましたが、ライバル選手も力んでしまったのか失敗を重ね、羽生選手が栄冠に輝くことができ、日本人男子として初めて優勝しました。男子フィギュアは女子に比べ、華やかさがなく、選手も西洋人と比べるとどうしても短身短足でスタイルも劣る傾向は避けられず、日本としては冴えない種目の一つでしたから意外のことでした。その前に欧州のバレー界で男子が思いもよらず好成績を収めるという快挙もあり、日本男子も変わったものだと感じました。これがもろ手を挙げて喜ぶべきかどうかは昔気質のシニア男子には判断の分かれるところでしょう。

葛西選手の銀メダルも競技前から騒がれていましたが、予想通りの結果が出て本当に良かったと思います。それをリジェンド **legend** というそうで、本人も自ら称していたようですが、40歳を過ぎるとスポーツ選手も凶太くなるのでしょうか。まあ其の位の凶太さがないとオリンピックでは活躍できないのでしょうか。アラフォーやシニアに元気を与える選手です。団体ラージヒルでも体調不良をおして出場した選手も含め、度重なるルール改正を克服し、チームワークでメダルを獲得したのは立派でした。病気を隠して出場するのは必ずしも感心できませんが、このような話はマスコミが喜ぶ話題でしょう。運良く結果に恵まれてよかったと思います。それにしても、若い17歳女子の高梨選手は事前に過激に騒が

れて、当日の気候条件などの不運もありましたが結果が出せずに残念でした。それでも 4 位だったので立派なものです。その後のマスコミの掌を返したような扱いには腹立たしさを覚えます。競技後に静かにしておくのは良いのですが、競技前のあの騒ぎは過剰ではなかったではないのか、競技前こそ静かにしてあげるべきではなかったでしょうか。報道にも過当競争があり、注目を浴びないといけないといった商業主義に毒されたマスコミの哀れさを感じます。高梨選手は、直ぐ後の W カップでは 2 連勝したので実力は認められています。オリンピックにはやはり魔物がいるのでしょう。

スノーボーパレル大回転では竹内選手が惜しいところで転んで 2 位に止まりましたが見事な銀メダルでした。決勝までは相手が転んだのですが、肝心の決勝では自分が転んでしまいました。勝負の面白さと言ったら選手には悪いでしょうか。日本では練習環境に恵まれないのでドイツ語を勉強しながらのスイスでのトレーニングにかなりの努力が見られました。ただ次のパレル回転では早い段階で転んでしまったのは残念でした。

スノーボーーフパイプというのは馴染の薄い競技ですが、あの状況で 6 m も飛ぶのは驚きでした。銀・銅メダルと 10 代の若者でしたが、若さだからこそできたのでしょうか。最近ではスキー場でもスノーボードが盛んであるという話も聞きます。この競技では 4 年前に腰パンスタイルで出かけ、日本人の恥を知らせるようでかなりの鬻蹙を買いました。今回はその反省できちんとした服装をしていたようで、そのせいもあるのでしょうか立派な成績をあげました。今回の平野・平岡選手はインタビューへの受け答えもしっかりしていました。スポーツも形から入るのが大切なことでしょう。スポーツ選手は、やはりそれなりにきちんとした身なり、日本選手なら日本選手らしい恰好が必要です。冬の競技では競技中は重装備なので分かりませんが、平常に戻った時のスタイルにがっかりさせられることがあります。茶髪に長髪では不潔に見えるし、競技をするスタイルには見えません。スポーツ選手でもいつも違和感を抱かせる選手が多いような気がします。日本人としてのアイデンティティは失わないで欲しい、外観で何処の国の人か分からないのは困ります。

冬の大会で夏のマラソンに相当するのがスキー複合ラージヒルでしょう。ジャンプで成果を出した上で、スキーで走り込まねばならないのでかなり疲れる競技であり、スキー競技の華だといえます。渡部選手が最後までデッドヒートを繰り広げましたが一歩及ばず 2 位に終わりました。見ていて気持ちのよいレースでした。あっぱれと言えるでしょう。

スキーに比べるとスケートは今回結果が出せませんでした。スケートは狭いコースを多くの選手が滑るので、衝突は起こるし転ぶし、1 回の出場選手を減らすなどして、もう少しゆとりのあるレース運びができないでしょうか。スキーにくらべせせこましく、ハラハラしながら見なければならぬので心臓によくありません。

球技では、アイスホッケーは惜敗もありましたが、実力の差が大きすぎます。体力、スピードが違い、狭いリンク内では技だけでは対応できないように思います。その点、カーリングはルールが良く分かりませんが、日本人に向けた技でカバーできる点が多いようなので、そのうちに成果をだすことが出来るでしょう。

記録には残らなかったが、記憶に残ったのはモーグルの上村愛子選手とフィギュアの浅田真央選手でしょう。上村選手は出だしは良くなかったが最後は最高の成果を出したので、もしやと思われましたが、評価点が低くまたまた惜しくもメダルを逃しました。競技後の清々しい態度が強く印象に残りました。女子フィギュアもメダルを期待されていましたが、ショートで思わずも転んでしまい信じられない成績でした。その後のフリーではトリプルアクセルを完全に決めて最高の結果を出して多くの人々に感激を与えましたが、初めの失敗が響いてメダルには届きませんでした。しかしマスコミにも優勝した以上に取り上げられたし、本人も最高の演技が出来たということで満足したことでしょう。大きく落ち込んだ後で、それ以上に回復したのは素晴らしい精神力で、日頃の努力の賜なのでしょう。4年間も懸命の努力し、最後の1日に体調、精神を整えて自己最高の成果を出すのは至難な業で、運も大きく左右するよう見られます。スポーツでもグローバルに活躍するには、日頃の地道な厳しい訓練のほか、頻繁な海外遠征、海外でのトレーニング、外国語の習得、マスコミへの対応などやることが多く、費用もかなりかさむものと思います。

冬の競技も数多く、バイアスロン、ボブスレー、リュージュ、アルペン、距離などありますが、亜熱帯国の選手には遠く実力の及ばないものばかりです。

いつもオリンピック競技で思うのですが、競技は客観的結果のはっきりするもの、早く滑る、遠くまで飛ぶ、球技のように点数が明確なものに限るべきと思います。飛距離やスピードを争う競技にも姿勢とかスタイルに関連した点が評価に入ります。その基準が観客には分かりにくいので、すっきりしません。印象点などは避けて欲しいものです。主観の入る競技は点数を入れず、順位争いの列外とし、純粹に技術の美しさ、芸術の素晴らしさを楽しんだら良いのではないのでしょうか。ショパンの音楽を楽しみ、ルノアールの絵に感銘を受ける態度で見たらもっと楽しくなるのではないかと思います。主観を入れるから、臆病とか自分の国の選手の方が上だとか騒ぐので逆に興ざめになります。フィギュアでは点数評価に反対する人が200万人もいたそうです。そんな人数を集めるのも驚異的なことですが、当の本人は結果を素直に認めているので、スポーツ選手らしい清々しさを感じました。

冬のスポーツは雪とか氷とかの上の競技で、1年中、氷雪で暮らしている人は少なく、どちらかといえば非日常的な生活の中での争いとなります。板とかエッジで雪や氷の上を歩くので、どうしても安定せず、転がり、滑ります。冬のスポーツでは転ばない、滑らないのが基本技術でしょう。勝ったと思っても転がると取り返しがつきません。基本のキとして転ばないことが大事で、転んだり、滑ったら良い結果は得られません。最も素人が競技すれば殆どが転んでいることとなりますが。

浅田選手も転んだのが致命的でした。彼女は大事な試合ではちょいちょい転びますし、それを指摘したオリンピックの偉いサンの発言は間違っていないし、意地悪で発言したもものではなかったのですが、発言の一部をマスコミが面白く取り上げ、発言者が発言者だったので、物議をかもしました。この事件も浅田選手が軽妙に切り替えし、かえって明るい

話題となったので、ここでも高得点を上げました。

最近、それなりの地位にある人が、立場を考えず問題な発言をすることが多いのに呆れさせられますが、その波及効果も考えずか、故意に悪影響を狙ってか、無理やり大きく取り上げるのにも問題があると思います。新聞、TV を見ていると、上から下まで、右から左まで、今まで見聞しなかったような事件や報道があり、日本人もかなり劣化しているのではないかと悲しい思いにもさせられます。指導的な立場にある政治家や経営者は簡単に滑ったり、転んでは困ります。日頃から十分に厳しい鍛錬を重ね、常にオリンピックの場にいるような緊張感で物事に対処して欲しいものです。

このような中で、オリンピック、スポーツは明るいニュースを多く提供してくれました。2年後の次のオリンピックでまた多くの素晴らしいニュースを期待したいと思います。

オリンピックは平和の祭典で、この間は争いはしないということになっていますが、終わるか終らないうちに、近くで争いが始まりました。毎日がオリンピックであるように恐ろしい争い事は地上から消えて欲しいものです。